

## 2016 年度 小委員会活動成果報告

(2017 年 2 月 9 日作成)

小委員会名	耐風設計資料小委員会	主 査 名:植松 康 就任年月:2016 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (荷重運営委員会)	委員長名:緑川光正 主 査 名:高田毅士
設 置 期 間	2016 年 4 月 ～ 2018 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	「建築物荷重指針を活かす設計資料 2」を刊行するとともに、建築物荷重指針の英文化とソフト化を行い、建築物荷重指針の普及と利用促進を図る。また、今後の風荷重評価で CFD が多用されることを踏まえ、その特徴を明確化する。 初年度:『建築物荷重指針を活かす設計資料 2』の刊行および講習会の実施 『建築物荷重指針』の本文英文化および風荷重算定部分のソフト化 2 年度:次の荷重指針改定に向けた活動方針の検討(特に、CFD の活用方法)	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無:無	
	主査:植松 康(東北大学) 幹事:谷口徹郎(大阪市大), 大竹和夫(竹中工務店) 委員:奥田泰雄(建築研究所), 片岡浩人(大林組), 片桐純治(泉創建エンジニアリング), 河井宏允(東京電機大学), 菊池浩利(清水建設), 近藤宏二(鹿島建設), 佐藤大樹(東京工業大学), 田村哲郎(東京工業大学), 寺崎 浩(大成建設), 西村宏昭(京都大学), 松井正宏(東京工芸大学), 吉江慶祐(日建設計)	
設置 WG (WG 名:目的)	設計風速 WG:設計風速の合理的設定法の検討 風力係数・風圧係数 WG:設計用風力係数および風圧係数の充実 風応答 WG:風応答とその荷重評価法の検討 新 CFD 耐風設計法 WG:風荷重評価への CFD 応用法の検討 風疲労 WG:変動風力による建築構造および外装材の疲労損傷評価法の検討 実大ストームシミュレータ検討 WG:実大ストームシミュレータの設計(課題抽出と対策)	
2016 年度予算	300,000 円	ホームページ公開の有無:無 委員会 HP アドレス:

項 目	自己評価	
委員会開催数	4 回 (4/6, 7/25, 10/31, 3/15)	
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	1. 『建築物荷重指針を活かす設計資料 2—建築物の風応答・風荷重評価/CFD 適用ガイド』	
講習会	1. 講習会「建築物の風応答・風荷重評価と CFD の適用ガイド」 参加者数:東京 142 名・大阪 51 名	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画		
大会パネルディスカッション	1. PD: CFD に基づく新しい建築物風荷重評価法 参加者数:141 名 『構造部門(荷重)パネルディスカッション資料:同上』	
対外的意見表明・パブリックコメント等		
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	概ね計画通りの活動を行い、当初の目標を達成した。具体的には、 1. 『建築物荷重指針を活かす設計資料 2』を刊行し、東京と大阪で講習会を実施した 2. 指針の英文原案を作成した 3. 荷重指針による風荷重算定ソフトを作成し講習会で紹介した	
委員会活動の問題点 ・課題	1. CFD を含め、荷重指針のあり方について更なる議論が必要 2. 委員会メンバーの若返りと女性委員の参加の推進(WG を含め)	